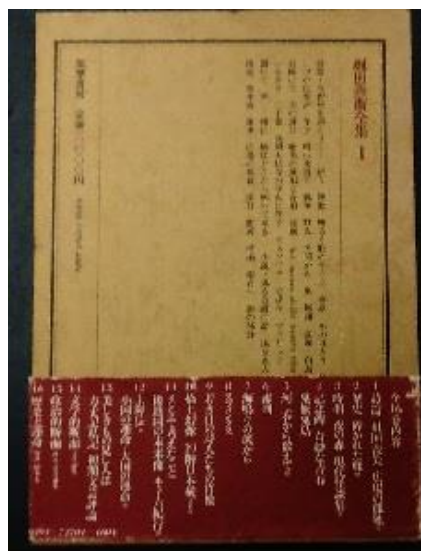


(再掲) 2019年4月1日 (月) 朝のうちは晴れ、新元号発表「令和」
『堀田善衛全集』見なおす試み

堀田善衛全集 (筑摩書房 1974年6月20日発刊開始)



2020年6月1日 (月) 雲の多い晴れ

今朝の大阪はとりあえず晴れている。九州も四国も梅雨に入った。近畿も時間の問題。ビル街にも紫陽花咲く。

— 自分を守る 1、2、3 —

とりあえず社会全体に日常が戻ってきた。今日から6月、3月からの3ヶ月の間に、暮らしにオンラインの比重が増えた。ここに来て、オンライン疲れ、「リモートワークハラスメント」が目立ってきたとか。なにごとも、バランスよく、というのは難しい。

新聞にはこれからさらにメンタルケアが大事になると書いてあったが、在宅のおかげで、職場内のストレスが減ってプラス効果が言われていたのは4月の終わり頃。けっきょく場が移っただけということか。

先週知人が訪ねてくれた。会うのは5年ぶりぐらい。互いの近況報告やら、最近の関心事など、いろいろと話し合った。その中で印象的だったの、いまの若い人は人間が怖いと感じているということ。

人間が怖い？ 30年ほど前でも教室の中で「目立ったらアカンねん」と専門学校生徒が話していたが、今はSNS、いつ自分に矛先を向けられるかわからない不安が付きまとっているのかもしれない。

みな誰しも一人の中に善と悪をそなえるから、怖いというセンスはたしかに必要。個人的にわたしの守りたい究極は自分の精神性であるから、自分の精神性を侵す人や場には自分からけっして近づかない。

どうしても場を共有しなければならぬなら、遅かれ早かれ、自分から離れる。それもできなければ、最後は正面きって闘うしかない。できるだけ静かに動いて、闘いもいとわない。

いまは人間が怖いと思っている若い人も、これからまだまだ先が長い。適度に怖がり、誰からも好かれることはないので、『類は友を呼ぶ』がわかってくれば、社会生活が面白く感じられるはずだけど。

2020年6月5日（金） 晴れ

今日も暑くなりそう。今週末には梅雨入りすると思ったが、来週末になりそう。今日は「芒種」。

ー 赤信号をいく、老ガール ー

ほぼ日常が戻ってきた。でも今も超朝型は継続中。今日も午前7時に事務所へ着いた。地下鉄車内の人が少ないからこの時間帯にしているが、今日は少し人が多かった。これから増えるかもしれない。

今日と同じ時間に中津駅へ着くと、同じ方向へ歩いていく高齢の女性を見る。身長は150cmぐらい、中肉で、小さなリュックを背負い、涼しそうな昔風の半袖ブラウスに幅広パンツ、足元はピンク線の入ったしっかり目のスニーカー、足早に脇をぬいていく。

駅から最初の広い交差点。赤の信号をそのまま進んでいく姿を初めてみた時には、“あら、あら、・・・”。まわりの心配をよそに、スタスタと同じリズムで進んでいく後ろ姿、“もう、あぶないなあ”と見送ったが、それは通り慣れた道で信号の構成をわかった上でのことだった。

道の途中で同僚らしき人と一言挨拶して職場を急ぐ感じの様子を見て、済生会病院で調理かそうじの仕事をされているのだろうと想像した。たぶん「お一人さま」の後半人生ではないか。

今朝も見かけた。いつものように赤の信号をスタスタと先に足を進めていく。今ではそれが遅しくみえる。足どり強く前へ進む、老ガール。

2020年6月9日（火） 晴れ

日曜から今日にかけて本当にきれいに晴れた。湿度も低めで、梅雨入り前の貴重なお天気。明日から曇りの予報。いよいよ梅雨入りか。

ー 試して見つける良しあし ー

日の出が早く、午前5時にはすっかり明るい。あと十日ほどで夏至。人生このかた朝型は一度もしたことがないという知人に、一度試すなら今がいい季節ですよ、と勧めた。

経験してみると、合う合わない、よしわるしが自分でわかる。朝型の場合、始めてみると、朝の過ごし方だけでなく、生活全体を見直す気になってくるから面白い。人間もまた自然の生きものだと思える。

うんと昔、旅行で知り合った女性の経営するラウンジを手伝ったことがある。何周年かの記念の特別dayの二日間、女性がたくさん要ったようで軽い感じで頼まれた。こちらも軽い感じでOKした。

できるできない、なんてことはあまり考えなかった。でも、できなくはないという感じはあった。一日目、“あっ、これはわたしには無理だな”をわかった。お愛想もできるが、それが8割となると、会話が続ける意味を感じない。二日程度の経験で十分であった。

若いうちは自分のことをあまりわかっていないから、いろいろを試してみる。はなから見向きのないものはあるから、ふるいに掛かっている。よほどの無理をしなければ、自分にとってのよしあしを見つける機会になる。

そんなこんなことを、これから世にでる人に出会えば、口をつけてでるのです。

2020年6月11日（木） 曇⇄雨

近畿も梅雨入り、昨日からそのまんまのお天気。今日もずっと曇りと雨の行き来。肌にはよしとして、むこう一ヶ月のりきろう。

— ちょっとの工夫、ちょっとの手間 —

どこも人が多くなってきた。日常がもどってきた。デパートは入口を出口を細かく分けているから、遠回りさせられたりするが。

昨日久しぶりに会った人たちが、この間にいろいろを気づいたことがあると話していた。多くの人がそうだろうと思う。

これまでけっこうムダなことをしていたなあ、ちょっと工夫すれば、手間をかければ使えるのに、そうしてこなかった…と一人が話すと、勉強しているつもりだったけどまだまだ自分磨きが足らなかった…と別な一人。

わたしはこの間にちよくちよく縫物をした。古着扱いにしていたスカーフ類を何枚か外出用に再生させた。あまり使っていなかったメンズ用のシルクマフラーを6、7枚のハンカチにした。

今あるもので自分に便利な何かに作りかえる。こういうことはやり出すと、どんどんやりたくなる。他にまだないかと周りを見渡したりする。とりあえず、今のところはやり尽した。

2020年6月15日（月） 梅雨の晴れ間

昨日も一昨日もよく降った。でも今日は陽ざしが見える。明日あさってにかけて梅雨の晴れ間になるよう。今年もまもなく半年がおわる。

— 便利すぎる道具は —

今から25年前、「ウィンドウズ95」が出て、インターネットが一般に広がり始めた頃、自衛隊出身の診断士の知人が、これからの戦争は情報が武器になると話したのをよく憶えている。

本物と見間違ふWebサイト、巧妙に情報操作するSNS、自己顕示欲と偏狭で表面的な正義感にかられた凡人が、それらの拡散に加担する。調査によると、SNSの利用者で真実を正そうと努める層は約2割。20-80原則はいろんな世界にあてはまる。

『道具は悪くない、使う側の人間の問題』と専門家がいつかテレビで話していた。初期のAIの実験で、数種類の相槌を打つAIに悩みを話した実験参加者のほとんどが、「このAIは自分のことをわかってくれている」と回答したそう。人間は可塑性に富んだ生きもの、人間の方が変る。

日本版SNSのミクシーが出だして利用者が増えだした頃、ある創業塾の受講者の中に2名の男性利用者がいた。ほとんど受講者はメール程度の利用だったので、メーリングリストで情報交流することにした。

そのMLがある時炎上した。一人の男性受講者に、その2名の男性者が、とてもとても、ここに引用できないような言葉で罵ったのだった。本当に仰天し、啞然とし、そして怒りがこみあげた。

同じように怒りを表明した女性受講者の一人は即日、MLからの脱退を宣言した。わたしは、それだけでは済まない、二人に姿勢を厳しく正し、MLの解消を提案し、MLはなくなった。

3人の間で何か行き違いがあったにせよ、発した言葉は常道を逸している。直接会っている時は、ごくごく平凡な人たち。でも今いま社会問題になっているSNSの発言様式そのまま。羽目を外して、注目をほしい一心の、幼稚で愚かなふるまい。こんな経験は初めてだった。

ときどきテレビのニュースやバラエティ番組で人々のツイートの文言が紹介されるが個人的には何か非常に雑な言い回しに感じられて、ピンとこない。気楽に発信できる媒体だから、そうなるのだろうけど。

ともかく、便利すぎる道具はよく考えて、自他ともによい選択をして使いたい。そうでなければ、自他ともに何か大事なものを損ねる可能性がある。もちろん、よりよくする道具にもなる。

2020年6月19日（金） ただただ雨

昨日からまた梅雨空、今朝もけっこう強く降っている。昨日も今日も気温が低く、冷たい雨。明後日は夏至。

— 雨の日、『悲しき熱帯Ⅰ』 —

雨のせいか、気持ちが内省的になる。16、17日のようにカラッとしたり日は、例えば17日水曜のように、誰かにハガキを書きたくなって、3人に出した。雨の昨日は新しい試みの一つするのに、自分との問答を繰り返した。本当にそのやり方でいいのか、どうか。

今朝は『悲しき熱帯Ⅰ』（レヴィ＝ストロース 中公クラシックス2000年4月）を思い出した。印象に残っている箇所、夕景を語る部分。日没の時に人間は俯瞰するのだというようなことが書いてあった。

本をとり出してみる。それは「第二章 旅の断章」の「日没」だった。朝と夕方、暁と黄昏とは決定に違うと書いてあって、日没は

『初めと中と終わりのある、完全な一つの上演である。このスペクタクルは、十二時間のうちに相次いで起こった戦いや、勝利や、敗北を、縮小された一種の映像として、だが速度を緩めて示すのである。暁は一日の始まりでしかないが、黄昏は一日を繰り返し見せるのだ』。

この本を読んだのは、出版されてそう経っていなかったから、2000年だったと思う。その頃は今のよう記録をしていなかったから確かではないが、20年も前。でも印象に残った箇所が見開き左右のどちらのページだったかは体が憶えているから、人間の感覚はすごい。

その凄さがほとばしっているのが、この本。超人的な才気の人類学者が、一気に書き上げた旅の記録。とうにあの世の人と思っていたが、逝ったのは2009年101才、新聞の訃報をみて、えっ、まだ生きてはったんや。

もしいまこの本を読みなおすと、違う世界へいってしまいそうだから、20年前の印象のまま、書棚の元の場所へ戻す。

2020年6月22日（月） 今のところ晴

早朝は曇り空だったが、陽が差してきた。ただし、下り坂の予報。昨日おとといがよく晴れて、気温も低く、風もあって、それまでの湿気もとんだ。またの梅雨空も許せる感じ。

ー 今年の「象鼻杯」ー

今朝アップした「ひと言ひとり言」に象鼻杯のことを少し話した。宇治の三室戸寺、吹田の万博公園で毎年開催されているが、今年は「コロナ」で中止かも、と話した。

実際どうなのか、検索してみた。やはりどちらも中止になっていた。他もたぶんどこも中止だと思う。蓮の葉を盃に、茎をつたうお酒をいただく。風流なこのあそびも来年に持ち越し。

例年の行事がいろいろと中止になっているが、京都は行くなら今のうち、かもしれない。「観光公害」がいわれるほど、観光客の数は尋常ではなかった。一昨年秋に行った時、地下鉄で身の危険を感じた。

最後に行ったのは昨年のたしか3月だった。一年以上も京都散歩をしていないのは、ここ20年ではなかった。自由往来も解禁になったし、真夏前に行ってみようか。

2020年6月23日（火） 西空に三日月



2020年6月26日（金） 徐々に陽ざし

薄日の早朝だったが、徐々に陽ざしがつよくなってきた。今日はまた晴れるのか。湿度は高めで、少々蒸し暑い。日中にかけてはもったのはず。今のうちから滋養のよい食事を。

— 未来しだいで変わる過去の意味 —

いまNHKFMからドヴォルザークのチェロ協奏曲が流れている。この曲を初めて聴いたのもNHKFMで、ザルツブルク音楽祭のハイライト番組だった。その時放送されたのが、「ヨーヨーマ」とベルリンフィルの演奏。

何かをしながら聴いていたが、しだいに集中するようになった。クライマックスに至っては、思わず「ブラボー!」、圧巻だった。チェロ演奏に関心をもつきっかけになった。

それから10年以上も経ってからか、「ヨーヨーマ」の来日演奏を知った。大阪でもコンサートは予定されていたが、一番聴きたいこの曲は東京でしかプログラムされていなかった。

生で聴いてみたい。よし、東京へ行こう。そう決めて、当時東京にいた弟にチケットをとってもらった。たのしみにその日を待った。しかし、日が近づくにつれ、ヘンな贅沢をしているように思えてきた。

いや、それでも、こういう機会はそうないし…、などなど、考えがいたりきたりした。そして最終的にチケットは弟に譲り、行くのはやめた。大阪でのソロコンサートに切り替えた。

数日して会社の上司との雑談の中で何気なくこのことを話した。すると即座に、「そんなことをしたらダメだ、君は」。うん？という表情をしたのだと思う、重ねて上司が、「君は、行こうと思ったなら行かないといけないんだ」。

こちらも若かったから、何故そう言えるのか、聞き返せなかった。わかったような、わからないような、怪訝な感じで話題は次へうつった。ただ、この一瞬の場面は妙に記憶に残っている。

若い頃に年長者の人から言われて記憶に残る場面が他に二つある。一つは、なんだかんだ言いながらわたしは平凡に生きると思いますと言った時、「君はそうならないよ」。もう一つは、「君は“わがまま”、わが道をいく」。

未来しだいで過去の意味あいが変わるという典型。独立していなければ、あまり甦ることのない3つの場面だったのではないか。ともあれ、今ではわたしが言う側になっている。